（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドリトルハウス向日		
○保護者評価実施期間	令和7年　2月　21日	～	令和7年　3月　7日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）　31	（回答者数）	20
○従業者評価実施期間	令和7年　2月　21日	～	令和7年　3月　7日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）　11	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年　3月　17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	グループ内の関連事業所と連携できる	定期的に合同での活動を行っている。その際、他の事業所での支援方法を学ぶことも出来ている。また、他の事業所への見学にも行くことで自身の事業所へ活かせることが出来る部分はないかの確認も行える。	支援内容、文書作成、情報共有方法など改めて事業所間で違いの確認を行い支援に関することの改善を行う。またグループ内の児童発達支援や就労継続支援B型の事業所へ職員が研修に行くことより放課後等デイサービスの前後の支援についても理解を深めていく。
2	福祉経験のある職員が充実している	昨年に比べ福祉での経験年数の長い職員が増えた。そのため今までとは違った活動、支援方法も取り入れることを進めている。	今までの支援に関する部分も残しつつ、新しい支援方法も検討することでより良い支援の発見につなげている。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育スペースの混雑	一軒家を利用した療育を行っているが、同じ建物内に就労継続支援B型の事業所が入っているため、玄関など共有しなければならないスペースが出てくる。	お互い自身の事業所だけがその場所を使うと考えてしまわず、どのようにすれば混雑しないかを情報共有し話し検討する必要がある。
2	職員間での情報共有	非常勤職員も多く、情報共有の仕方に工夫が必要である。出勤回数が低い職員に対して、どの情報をどの程度伝えるかを検討する必要がある。	各職員がどの部分の情報を把握していれば、役割を果たせるかを考慮し情報を整理し伝える。また、情報を適切なタイミングで伝達、閲覧できる仕組みを見直す事が必要。
3			